

イースト氏寫生談について

先般來石川欽一郎氏が本誌に掲出せるイースト氏寫生談は、倫敦カツセル會社出版アルフレッド、イースト氏著油畫風景畫法より摘譯せるものなり、同書は版權登録に係はるもの故、本會も一應著者の認諾を求め置かん爲め、過般石川氏より左の意味の書面をイースト氏に宛て發送せり

拜啓自分儀は泰西の水彩畫術を専門に研究するを以て目的とせる日本水彩畫會の一員に有之候本會より「みづゑ」と稱する雜誌を刊行して會員に配布致居り候貴下の御著書ランドスケープ、ペインチング、イン、オイル、カラーズ、は美術研究者にとり一大寶典とも申すべく依て其中より水彩畫學生に有益なる部分を摘譯して「みづゑ」誌上に掲載致居候間此儀御承知の上何卒御認諾の程願上度御差支なき事を希望致候貴下の御講義は美術に携はる者に大なる利益深き興味を與ふるものに御座候

「みづゑ」兩三冊御左右に呈し候日本語にて印刷致しあり候へども御一覽を得ば大幸に御座候時々御高説等も伺はれ候へば我邦美術界の幸福之に過ぐるものなく候

此機會に於て本會を代表し至高なる敬意を貴下に呈し候

千九百〇八年十二月二十九日

日本水彩畫會

石川欽一郎

英國倫敦

アルフレッド、イースト殿

之に對しイースト氏より左の如き意味の返書あり

拜復西班牙地方の旅行を終へて歸國候處十二月二十九日附の御書面並に雜誌到著致居り難有拜見仕候

自分一已より申し候へば著書中より御隨意に御譯出相成り一向に差支へ無之候へどもカツセル會社が版權所有者に有之尤も版權は日本までは効力を及ぼさずとは存じ候へども一應同社の承諾を得るに如かずと存じ候

著書が貴望に叶ひ候は自分の喜ぶ處に御座候

貴下並に御會の爲め何なりとも喜んで御助力申上べく候

千九百〇九年三月十八日

倫敦ヴァイクトリヤ街スペンサー街二番

官設英國美術家協會々頭

アルフレッド、イースト

日本水彩畫會

石川欽一郎殿

尙右返書と同封にてカツセル會社よりイースト氏に宛てたる書狀あり左に譯出すべし

拜復貴翰並に日本紳士よりの依頼書正に落手仕候右は版權規則には違ひ候へども斯道の爲にも有之候故貴著ランドスケープ、ペインチング、イン、オイル、カラーズより隨意譯出せられて少しも異存無之元より進んで承諾申上候次第に御座

候然れども商買上より申せば之に一の條件を附するを至當と存じ候即ち右日本紳士は目に付き易き處にカツセル會社出版ロイヤル、アカデミー準員アルフレッド、イースト著ランドスケープ、ペインチング、イン、オイル、カラスより摘譯せる旨を記載し且其雜誌中に日本に於ける本書賣捌店を掲出すべきことに御座候右賣捌店名は封入仕候

右御同意を得度候

今回の御旅行は定めて御愉快に且つ御成功と存上候暖かき西班牙より御歸京後寒氣御自愛奉祈候

千九百〇九年三月十七日

カツセル會社美術部支配人

スコットソン、クラーク

ロイヤル、アカデミー準員

アルフレッド、イースト殿

再伸

右賣捌店名は全部掲載するの必要は無論無之其中の二三店を示せばよろしく候

此賣捌店名の表は封入し來らず、尤も東京にては丸善中西屋等より得らるべく、其他横濱神戸邊りの外國書籍店にもあるべし一部六圓二十五錢

△ △ △

此頃歸朝された矢崎千代二氏の談話に曰く、『繪には研究のためと展覽會向きと感興に成るのと三種ある、第三のが眞の繪畫だ、

旅行して作つた繪は感興のために稀に傑作が出来るから、研究時代の間にも楽しみがある——繪には悟りが肝要だ、氣が働かなければならぬ、心持や境遇の變化を要する故、畫家と旅行は離れぬものだ——外遊中で獨乙の畫家の勉強には感心した、サキソニー邊では、畫家の如きは瀛車の四等に乗つて寫生に出掛ける、深林なぞに入り、二三日位ひは野宿して製作を續ける、其代り餘り熱心のため、畫風も偏し過ぎ、其上氣が狂ふたり自殺するものが割合に多い——次に二流以下で自活してゐる畫家は、大抵獨身者で、一生研究三昧に了る、何分畫家が多過るために、是等の人を満足に養ふことは出来ないのだらう——一流の人の作なら何萬圓でも出すが、二流以下のならば只でも貰はぬといふやうな調子で、實力があつても世に知られぬ人は不遇に了らねばならぬ、日本なぞその憂はない——巴里の畫家は皆吞氣だが、英國では若い連中でも却々眞面目で、會合の約束など一分も間違はない——俗惡なアメリカでも畫家の連中は別天地で氣持がよい』云々（中央新聞）

□ □ □

日本水彩畫會五月例會は二十三日開會、午前は大下講師の『時代思潮と學生』といへる講話あり。午後磯部、萩原、戸張、大下諸氏の出品畫二百點に對する批評あり、戸張氏は『構圖』について有益の話あり、今回の受賞者は榎本滋氏なりき。